

文化・芸術

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から

明治、大正、昭和を通して、日本の近代洋画をリードし続けた岡田三郎助。「美人画の岡田」と称され、フランスの師フアエル・コランに学んだ外光派の手法に日本的な美意識や装飾美を調和させ、優美で気品あふれる女性像の名作を数多く生み出しました。

その一方、アトリエ周辺の身近な自然や旅先で出合った風光明媚（めいび）な景色などのスケッチを重ね、生涯で描いた作品のおよそ半数が風景画といわれるほど、その制作に

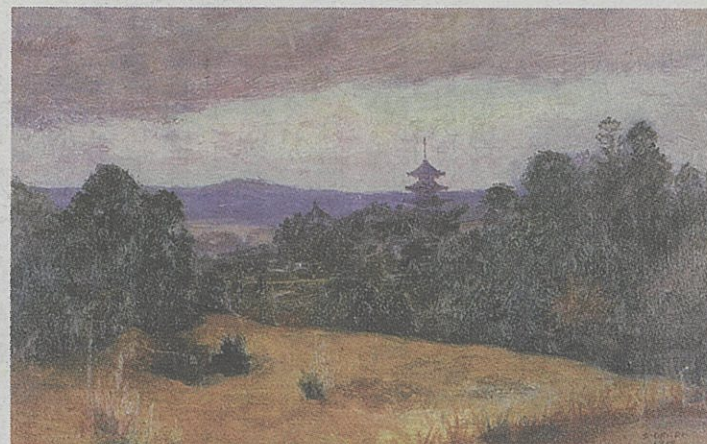
明治、大正、昭和を通して、日本の近代洋画をリードし続けた岡田三郎助が少年期の後、折に触れて訪れた京都に取材した風景画です。緑豊かな郊外から、はるか視線の先に五重塔を望む風景が捉えられています。外光派の特徴である紫色を用いた上品な色調と柔らかな筆触により、自身に感動を覚えた古都の景色を情感豊かに表現した作品です。

この作品は11日からこのコレクション展で展示いたします。

（佐藤）

「京都郊外」

1918年、油彩・カンバス
33・3センチ×53・0センチ



岡田三郎助

（1869～1939年）